

## 伊賀市スポーツ施設再編計画（案）

### 第1 策定の趣旨（計画の背景）

- （1）計画の位置づけ
- （2）対象となる施設
- （3）計画の目標期間

### 第2 現状と課題

- （1）人口減少、少子高齢化の進む伊賀市
- （2）厳しい財政状況
- （3）伊賀市のスポーツ施設の配置状況と利用状況
- （4）体育施設が抱える課題
  - ①体育館等屋内体育施設
  - ②屋外体育施設（多目的グラウンド、競技場、野球場等）
  - ③テニスコート
  - ④プール
  - ⑤ゲートボール場
  - ⑥B&G海洋センター
  - ⑦武道場（剣道場、武道場）、弓道場
  - ⑧管理棟
  - ⑨施設全体
- （5）市民のスポーツニーズと課題
  - ①健康増進のためのスポーツ
  - ②競技スポーツの推進について
- （6）公共施設最適化計画の推進に向けた課題

### 第3 生涯スポーツ都市宣言推進と体育施設

- （1）生涯スポーツ推進のための施設のあり方
  - ③ スポーツに親しむための施設のあり方
  - ④ スポーツを通じた活力ある地域づくりについて
- （2）施設における使いやすさと効率性の均衡に
  - ① 使いやすい施設
  - ② 効率性の高い施設
  - ③ 施設運営に向けた協働

### 第4 市民ニーズに対応した持続可能なスポーツ施設のあり方

- （1）施設の再配置について
- （2）効率的な施設運営について

### 第5 今後10年間のスポーツ施設整備

## 伊賀市スポーツ施設再編計画（案）

### 第 1 策定の趣旨（計画の背景）

少子高齢化の進展に伴う子どもたちの運動機会の減少による体力・運動機能の低下や、増加する高齢者世代の健康志向、市民のライフスタイルの変化による多様なスポーツニーズなど、生涯を通じたスポーツへの需要が高まっていることから、伊賀市では「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」を行いました。心と体の健康を育むとともに、人と人の交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るため一人ひとりが生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進しています。

また、2021「三重とこわか国体」が開催されるにあたり、伊賀市ではハンドボール（少年女子）、軟式野球（成年男子）、サッカー（女子）、クレー射撃（成年）、剣道（全種別）などの競技会場として決定しています。それぞれの競技に支障のないよう施設の整備を行う必要があります。

合併前には、地域住民の健康増進や多様化するレクリエーションへの需要に対応するため、スポーツ事業の取り組みやスポーツ関連団体への支援を行ってきました。それとともにスポーツ施設の整備についても地域間で進めてきた経緯があります。さらに、建設後20年以上たち老朽化が進行している施設も多くあり、修繕費が増加し、維持管理経費を圧迫していくことが予想されます。しかし、人口減少により利用者がますます限定されてきている施設もあり、公益性の観点から施設のあり方や配置を見直す時期が来ています。

持続可能な公共サービスの実現に向けて平成 26 年度に公共施設最適化計画が策定されました。そこではそれぞれの施設の減少を踏まえ縮小や複合化などの方針が示されています。市民が生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう学校施設も含めてスポーツに使用できる施設を継続的に維持、提供するとともに老朽化した既存施設の維持改修を計画的に行うこと、施設の廃止、統合などを進めることなどについて今後の方針を整理する必要があります。そのためには、安全かつ快適で、人口規模、財政状況に見合った効率的で持続可能な施設運営を行っていく必要があります。可能な限り機能を維持しながら施設の最適配置となるよう、地元地域やスポーツ施設の利用者、スポーツ団体等の意見にも配慮をしつつ、公平性の観点からも施設のあり方を見直し、計画を策定する必要があります。

（第2次伊賀市総合計画、第2次再生計画に基づき）「人・地域づくりの推進」に向けて「文化活動やスポーツ活動が活発なまちづくり」に取り組み、スポーツ活動の促進事業やスポーツ施設の整備事業をすすめるため、今後のスポーツ事業の方向性を見据えることはもちろん、目的や用途も考慮しスポーツ振興の視点からスポーツ施設に関してコストの状況、利用の状況等の各要素について現状把握を行い、伊賀市生涯スポーツ都市宣言との調和を図り、可能な限り機能を維持しながら施設の再編を進める必要があります。

### (1) 計画の位置づけ

本計画は「伊賀市公共施設最適化計画」を踏まえながら持続可能なスポーツ振興を図っていくため、伊賀市生涯スポーツ都市宣言の実現に向け、今後の伊賀市のスポーツ施設の再編と整備の指針となるものです。

### (2) 対象となる施設

本計画の対象は、伊賀市体育施設条例第2条に規定するスポーツ施設とします。

### (3) 計画の目標期間

本計画の目標期間は、2020（令和2）年度から2029（令和11）年度までの10年間とします。

## 第2 現状と課題

### (1) 人口減少、少子高齢化の進む伊賀市

伊賀市は2004（平成16）年11月1日に6つの市町村が合併により誕生し、15年が経過いたしました。合併当時とは社会情勢も大きく変動し、2005（平成17）年4月には103,089人（約10万3千人）であった人口も2019（令和元）年6月現在91,630人、2030（令和12）年では約7万1千人まで減少しさらに長期的に人口減少が続くことが予想されています。このことは今後のスポーツ人口への影響も大きく、青少年のスポーツ人口の減少や高齢者のスポーツ人口の増加などスポーツニーズも変化し、大きく影響が生じるものと考えます。

### (2) 厳しい財政状況

伊賀市においても少子高齢化や地域経済の低迷により、厳しい財政状況となっており、中期財政見通しでは令和6年度と令和元年度を比較すると歳入では主に市税や合併算定替の段階的縮減による地方交付税の減少、合併特例債の終了などにより財源がますます減少していくことが予想されています。健全な財政運営を図るため、自主財源を確保し、市民も税負担の公平性を高める必要があります。さらに合併当時からはほぼ見直しのされていないスポーツ施設の配置についても、老朽化による改修をはじめ規模、機能の面で多くの課題を抱えています。様々な面でまちづくりの考え方の見直しを行う中で、全市的な視点で、だれもが気軽に楽しむことができるスポーツ活動を推進するために、長期的な人口減少と社会情勢を見据えながら今後のスポーツ施設のあり方を整理し、スポーツ施設の配置の最適化を図り、効率的で持続可能な体育施設の運営を行えるよう検討が必要です。

### (3) 伊賀市のスポーツ施設の配置状況と利用状況

2020年3月現在、市が所有する施設は合併前に整備された施設をほぼ維持し**38**施設と**管理棟3**施設が存在します。（また、県所有の施設が1施設あります。）

また、市立小中学校の運動場や体育館等の学校開放がされています。

#### (4) 体育施設が抱える課題

##### ① 体育館等屋内体育施設

市内中心部に近い施設の利用率と中心部から離れた地域の施設の利用率には大きな差と固定化が生じてきました。その要因として体育施設の中には過去の学校の統廃合により学校施設から社会教育施設へと移管された体育館があります。それらの体育館は、新耐震基準（昭和56年に改正された以降の耐震基準を言う）以前の建築物であり、老朽化の進行が顕著となっています。これらは概ね利用主体が地域住民となっており、コミュニティ施設としての性格が強くなっています。施設の維持管理費の負担や災害時の避難施設となっている施設もあり、地元への譲渡に至っていない傾向にあります。しかし支所移転先となった青山北部公園運動施設については老朽化も著しく廃止となったため青山地区の体育館の整備方針を検討する必要があります。

各地域では学校の体育館などの学校施設の開放を行っています。

今後も学校の統廃合の進展が想定されますが、体育施設への転用による管理施設数の増加が懸念され、市内の施設間の需要の平準化と維持管理費の圧縮が大きな課題となっています。

##### ② 屋外体育施設（多目的グラウンド、競技場、野球場等）

野球やサッカーなどのスポーツ少年団は主に小学校グラウンドを中心に、中高生はそれぞれの学校グラウンド部活を、社会人も幅広い年代で野球場や多目的グラウンドで活動をしています。団体競技であることから人口の多い中心部の施設の利用が多くなる傾向にあります。屋内体育施設と同様に学校施設から社会教育施設へと移管された施設は、地域のコミュニティ施設としての性格が強くなっており、利用は概ね地域住民と限定的になっています。市内中心部に近い施設の利用率と中心部から離れた地域の施設の利用率には大きな差が生じてきました。

サッカー場は芝の施設が3施設ありますが、芝生の養生のため使用期間が制限されることがあり、利用状況に変動があります。

##### ③ テニスコート

テニスコートは6施設が点在しており利用状況は地域により大きな差が生じています。多くの施設で減少傾向にあるため利用状況や管理運営の観点またスポーツ振興の視点から集約等についても方向を検討する必要があります。

##### ④ プール

プールはB&G海洋センターの施設が2施設あり、天候に左右されず、また夜間の利用が可能となっているため大きな変動はありません。しかし夏季に限定されるため開設日数が少ない施設であることと少子高齢化により利用者の増加が見込めないと考えられるため効果的な稼働が課題となっています。

##### ⑤ ゲートボール場

ゲートボール場は3施設ありますが、阿山第1運動公園ゲートボール場に集中しています。しらさぎ運動公園多目的グラウンドが屋内施設であるためそこを使用することが多くなっています。

##### ⑥ B&G海洋センター艇庫

艇庫は2施設あり、どちらも利用実績は低くなっています。

⑦武道場（剣道場、柔道場）、弓道場

それぞれ 1 施設で、は多少の増減はあるものの大きな減少はありません。

⑧ 管理棟

管理棟は3施設ありますが、利用は1施設に集中しています。

⑨ 施設全体の課題

少子高齢化を迎え、ライフスタイルの多様化やスポーツに対する市民ニーズの多様化から、それらに対応できる環境整備が求められています。

○施設の老朽化

スポーツ施設は整備後 20 年以上経過している施設がほとんどで、大規模改修が必要な施設も見られます。トイレなどの設備も時代背景に対応できていない施設も見られます。

今後は将来のニーズを見極めながら施設整備を検討する必要があります。

○大規模な大会に対応できる施設への整備

本市が所有する施設で大規模な大会が開催可能な施設は上野運動公園競技場と上野運動公園野球場です。競技場は芝生が張られ養生期間が必要となることや選手の控室などの環境、見るための環境などにも多くの課題があり、市内に全国レベルの女子サッカーチームが所在しているにもかかわらず環境整備が向上していかない状況にあります。

○利用の少ない施設や安定的な利用ができない施設

年間を通じて利用者が極端に少ない施設や、同じ機能の施設を持つ施設が複数あることから利用が少ない施設があります。

また、グラウンドの中には雨などの天候でグラウンドの環境を悪化させることを避けるため当日の使用ができなくなるなど安定した利用ができない施設があります。

これらの施設は、費用対効果の観点からも今後の在り方について検討をする必要があります。

○災害時の避難所

体育施設の中には災害時の避難所となっている施設があります。スポーツ施設の機能と避難所の役割の整理をする必要があります。

現在防災、避難施設となっている施設 17 箇所

拠点避難所 大山田東体育館、青山児童屋内運動場

ヘリポート いがまちスポーツセンター総合グラウンド、大山田東グラウンド、阿山第一運動公園、大山田B & G海洋センター駐車場、上野運動公園野球場、上野運動公園競技場、ゆめが丘多目的広場、青山北部公園運動施設、青山高尾グラウンド、青山矢持グラウンド、青山グラウンド

指定避難所 上野運動公園体育館、阿山B & G海洋センター、大山田B & G海洋センター、青山北部公園体育館

○計画的な整備

財政上を見極め、大規模な改修を含め必要性を充分検討し計画的な整備を行う必要があります。

## (5) 市民のスポーツニーズと課題

### ①健康増進のためのスポーツ

スポーツ基本法（前文）では、「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」と規定されております。スポーツを楽しみながら適切に継続することで、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じて健康寿命の延伸への貢献が期待されます。現役世代では、日々忙しく、なかなかスポーツをするための時間が確保できない、また、自分の健康課題に対する危機感をそれほど感じていない現状があります。健康のためにスポーツをと国の「スポーツ基本計画」では成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度とする目標を掲げています。本市でも誰もが各々の年代や関心・適正等に応じて日常的に身近で気軽に、生涯にわたって目的に応じたスポーツ活動に親しむことのできる機会の創出と環境づくりを検討する必要があります。関係部署やスポーツ団体、総合型地域スポーツクラブなど、官民連携による取り組みが必要です。

総合型地域スポーツクラブを中心とした地域スポーツ環境の整備として、トップアスリートの活用や「新しい公共」を担うコミュニティクラブの推進、学校体育施設の有効利用も検討する必要があります。

### ②競技スポーツの推進について

## (6) 公共施設最適化計画の推進に向けた課題

厳しい財政状況の中、これまで通りの施設運営を行うことは困難な状況です。社会体育施設全体の利用状況からも使用率の低い施設や老朽化が著しい施設、多額の維持管理費用がかかる施設が多くあり、社会体育施設としての目的と位置づけを明確にし施設の集約化を図る必要があります。

- 施設機能の集約化
- 施設配置の見直し
- 効率的な施設運営
- 設置目的の見直し（用途の変更）
- 見直しの視点

社会体育施設としての役割

受益の範囲

利用の主体は市民か、利用頻度と利用者数、利用者の固定化

施設の状況

新耐震基準を満たしているか、設備の充実、大規模改修の必要性、

安全面

市の規模に見合った配置

配置数

利用状況とニーズ

### 第3 生涯スポーツ都市宣言推進と体育施設

#### (1) 生涯スポーツ推進のための施設のあり方

##### ①スポーツに親しみ楽しむための施設について

###### 【スポーツに親しみ楽しむ施設とは】

ア身近に施設があること

イその施設で多種多様な教室のメニューがあること

ウやりたい種目の施設があること

###### 【課題と現状】

スポーツに親しみ楽しむスポーツ施設にするには、施設の充実もさることながら、当該地域のスポーツ事情に精通しているスポーツ指導者（スポーツ推進委員等）の存在が必要不可欠であり、各種教室を開催する地域の体育組織や総合型地域スポーツクラブの存在が身近な環境にあることが、スポーツに親しみ楽しむことができる要因となっています。

しかしながら、全地域に総合型スポーツクラブがないことなどが課題となっています。

##### ②スポーツを通じた活力ある地域づくりについて

###### 【課題と現状】

スポーツを通じた活力ある地域づくりを行っていくには、地域に総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツの組織の形成が必要であり、その組織の中心的役割の担い手がスポーツ推進委員及びスポーツクラブにおいてはマネージャーであり、その組織の拠点となる施設として本市では概ね学校開放施設が担っている状況です。

#### (2) 施設における使い易さと効率性の均衡について

##### ①使い易い施設

ア身近な施設でその施設までの行き帰りが苦痛にならない

イ使用料金が手軽である

ウ予約が容易にできる

###### 【課題と現状】

ア、イに該当する施設としては、地域内にある学校施設であり、スポーツ施設の再編を考える上では必要不可欠な施設である。市営体育館が身近に無い地域もあることからその重要度が高いと考えています。

しかし学校開放施設には予約等について管理人が常に存在しているスポーツ施設にはない不便な点があります。

##### ②効率性の高い施設

ア稼働率評価の高い施設

稼働率評価 Aの施設（9割を超える）5施設

伊賀市民体育館、大山田B&G海洋センター体育館、阿山B&G海洋センター  
トレーニングルーム、いがまちスポーツセンタートレーニングルーム 伊賀市民弓道場

稼働率評価 Bの施設（6割以上9割以下）7施設

阿山B&G海洋センター体育館、しらさぎ運動公園多目的グラウンド、上野運動公園テニスコート、ゆめが丘テニスコート、伊賀上野武道館剣道場、大山田B&G海洋センターレーニングルーム、阿山第1運動公園屋内ゲートボール場

#### 【課題と現状】

夜間照明施設がありながら稼働率評価がCにあまんでいる施設については、夜間の利用者が開設された当時は沢山いたが、現在は減少傾向にある施設といえる。屋外多目的施設の夜間照明はコストもかかることから、ニーズのない施設については夜間利用について見直す必要がある。

#### (3) 施設運営に向けた協働

適正な施設運営には、使い易さと効率性の相乗効果が必要不可欠であり、稼働率評価の高い施設は、使い易いことによって稼働率評価も高くなると考えられ、概ね市民ニーズに対応した施設であるといえる。また使い易い施設である学校開放施設と稼働率評価の高いスポーツ施設を概ね地域内にバランスよく再編することがスポーツ振興の観点から重要である。

## 第4 市民ニーズに対応した持続可能なスポーツ施設のあり方

### 【基本的な考え方】

○スポーツ施設については伊賀市を6つのエリアで考え、施設の集合を図る。

○エリア外の単独施設は、基本的に縮小方向で進めるが、稼働率評価の高い施設については、エリア内に移転し継続する。

○体育施設アンケートの結果を参考に市民の声を十分反映した計画とする。

#### (1) 効率的な施設運営について

効率的な施設運営には、施設の集約及び集合化は避けて通ることができない。

については、基本的な考えからニーズの高い単独施設については、既存の体育施設付近への移転等を行い効率的な運営を行い、稼働率評価によりニーズの低い施設については廃止します。集合エリア及び体育施設については下記のとおりとします。

##### ①上野運動公園エリア

上野運動公園野球場、(仮称) 上野運動公園多目的広場、上野運動公園競技場  
上野運動公園スポーツセンター、上野運動公園スポーツセンター

##### ②しらさぎ運動公園・伊賀市民体育館・ゆめが丘エリア

しらさぎ運動公園多目的グラウンド、しらさぎ運動公園武道場、  
しらさぎ運動公園管理棟、伊賀市民体育館、伊賀市民弓道場、  
伊賀市民体育館管理棟、ゆめが丘多目的広場、ゆめが丘テニスコート、

##### ③阿山運動公園エリア

阿山第1運動公園、阿山第2運動公園、阿山B&G海洋センター、  
阿山B&G海洋センター艇庫

##### ④いがまちスポーツセンターエリア

いがまちスポーツセンター

##### ⑤大山田B&G海洋センターエリア



大山田B&G海洋センター、大山田B&G海洋センター艇庫

⑥青山グラウンドエリア

青山グラウンド

(2) 施設の再編について

**【具体的な取り組み】**

令和2年3月末で、公共施設最適化計画第Ⅰ期が終了し、令和2年4月1日からの第Ⅱ期にあわせ体育施設再編計画第Ⅰ期をスタートさせる必要があり、より効果的かつ効果的にスポーツ振興を図っていくために、以下のとおり個別施設の方向性を示します。

①公共施設最適化計画

②体育施設再編計画

③特徴

④10年以内の大規模修繕等（予定）

スポーツ施設再編計画 Ⅰ期 令和2年度～令和6年度

Ⅱ期 令和7年度～令和11年度

**1 上野運動公園野球場**

①継続

②継続

③2021（令和3）年三重とこわか国体軟式野球の会場となっている。市内唯一の野

球専用球場。稼働率評価はCで利用は概ね土日祝に限定される。

④令和2年度 内野整備工事

令和2年度 防球ネット設置工事

**2 上野運動公園競技場**

①継続

②継続

③地元クラブ伊賀FCくノ一のホームグラウンドであり、2021（令和3）年三重とこわか国体女子サッカー競技の会場でもある。市唯一の公式のサッカーグラウンドである。稼働率評価はCで利用は概ね土日祝に限定される。

④令和2年度 外部階段撤去・設置工事

令和3年度 シャワー・ロッカー室内部修繕工事

**3 上野運動公園スポーツセンター**

①縮小 Ⅱ期

②継続

③上野運動公園内体育施設等の管理センターとして機能している。

④なし

**4 上野運動公園テニスコート**

①縮小 Ⅱ期

②継続

③平成30年度にA、Dコートを修繕したが、残りのコートも消耗しており改修が

必要である。夜間照明や防球ネットを越えたボールが近隣の住宅に迷惑をかけることもあり苦情も多い。稼働率評価はBと高く利用者ニーズは高い。伊賀上野武道館移転後に4面増築を検討する。

④令和7年以降 増築工事

## 5 上野緑ヶ丘テニスコート

①縮小 II期

②移管廃止 I期（学校施設として教育委員会へ移管）

③伊賀市立緑ヶ丘中学校テニスコートと隣接し、学校利用が多いため利用者数は多いが夜間照明がないことから稼働率評価は低い。

## 6 伊賀上野武道場

①縮小 II期

②移転継続（しらさぎ公園エリアへ移転を検討）

③平成29年4月に弓道場が旧上野商業高校跡地へ移転したが、市唯一の武道場であり施設の利用ニーズは高い。しらさぎ運動公園施設への移転新築を検討する。

④令和7年以降 移転新築工事

## 7 ゆめが丘テニスコート

①継続

②継続

③砂入り人工芝4面のテニスコートであり、市内では比較的新しいテニスコートである。稼働率評価はBと高い。

④なし（市内全テニスコートを計画的に順次改修）

## 8 ゆめが丘多目的広場

①継続

②継続

③天然芝で水はけが悪い。1月から3月は芝生養生のため休止しているため稼働率評価はCと低い。人口芝生化及び夜間照明整備を検討する。

④令和7年以降 人工芝生改良工事

## 9 しらさぎ運動公園多目的グラウンド

①計画外

②継続

③平成28年4月から運用を開始した新しい施設であり、主競技のゲートボールだけでなく、グラウンド・ゴルフ、野球等の利用もあり年々利用人数が増加している。稼働率評価もBと高い。

④なし

## 10 しらさぎ運動公園屋外ゲートボール場

①計画外

②廃止

③平成28年4月から運用を開始した新しい施設であるが、ほとんど利用がない状況である。武道館の移転先として検討する。

④なし

## 11 しらさぎ運動公園管理棟

①計画外

②継続

③しらさぎ運動公園の管理センターとして機能している。

④なし

## 12 伊賀市民体育館

①計画外

②継続

③平成29年4月から運用開始の施設であり、市営体育館の中で一番大きな体育館である。人口が減少する中で30年度利用者数は29年度に比べて増加している。稼働率評価もAと高い。

④なし

## 13 伊賀市民弓道場

①計画外

②継続

③平成29年4月から運用開始の施設であり。弓道教室及び弓道大会が開催され稼働率評価もAと高い。

④なし

## 14 伊賀市民体育館管理棟

①計画外

②継続

③平成29年4月から運用開始の施設であり、伊賀市民体育館等の管理棟として機能している。

④なし

## 15 いがまちスポーツセンター

①継続

②継続

③いがまち地域のスポーツの拠点施設であり、多目的グラウンド、テニスコート（砂入り人工芝2面、全天候型3面）及びゲートボール場が有る。伊賀市内の多目的広場の中では、最大の面積が有り、ソフトボール協会からはソフトボールフェンスがあれば、ソフトボールの公式試合を誘致できるといわれている。テニスコートの老朽化及び夜間照明施設の故障中である。

④Ⅰ期 テニスコート改修工事

Ⅰ期 テニスコート夜間照明設備改修工事

## 16 島ヶ原運動広場

①縮小 Ⅱ期

②廃止

③公共施設最適化計画では、Ⅱ期廃止施設であり、近隣に島ヶ原小学校、中学校のグラウンドがあることから、島ヶ原住民自治協議会への無償貸付の方向で進めま

す。夜間照明施設が無く稼働率評価はCと低い。

④なし

### 17 阿山第1運動公園

①継続

②継続

③阿山地域のスポーツの拠点施設であり、多目的グラウンド、屋内ゲートボール場（砂入り人工芝2面）及びテニスコート（砂入り人工芝2面）が有り、利用者数も多い。特に屋内ゲートボール場は、市内体育施設中で有数の利用者数である。稼働率評価は多目的グラウンドがC、屋内ゲートボール場がB、テニスコートはCである。

④Ⅰ期 高圧受電設備修繕工事

Ⅰ期 テニスコート防球ネット修繕工事

### 18 阿山第2運動公園

①継続

②継続

③貴重な天然芝広場で、サッカー競技利用が主の施設である。阿山第1運動公園、阿山B&G海洋センター施設と合わせると多種多様な競技に対応した総合運動公園の一部であり、サッカー協会からの要望の一般用グラウンドの人工芝生化を検討する。夜間照明施設がないため稼働率評価はCと低い。

④Ⅰ期 グラウンド防球ネット改修工事

Ⅱ期 人工芝生化改良工事

### 19 青山テニスコート

①複合化（市内テニスコートをある程度集約する）

②廃止 Ⅰ期

③全天候型3面のテニスコートであるが、老朽化が著しい。

④なし

### 20 青山児童屋内運動場

①縮小 Ⅰ期

②廃止 Ⅰ期

③公共施設最適化計画では第1期縮小の施設であり、使用者も地域住民に限定されている。令和2年10月1日から青山北部公園運動施設が廃止となることから、代替施設となりえるのか1年程度様子を見る。

④なし

### 21 青山グラウンド

①継続

②継続

③青山地域のスポーツの拠点施設であり、多目的広場、青山ゲートボール場がある。

稼働率評価はCである。

④Ⅰ期 照明設備修繕工事

## 22 青山高尾グラウンド

①縮小 I期

②廃止 I期

③公共施設最適化計画では第I期縮小施設であり、使用者も地域住民に限定されていることから、住民自治協議会へ無償貸付する方向で進めます。

④なし

## 23 青山矢持グラウンド

①縮小 I期

②廃止 I期

③公共施設最適化計画では第I期縮小施設であり、使用者も地域住民に限定されていることから、住民自治協議会へ無償貸付する方向で進めます。

④なし

## 24 青山高尾体育館

①縮小 I期

②廃止 I期

③公共施設最適化計画では第1期縮小の施設であり、使用者も地域住民に限定されている。令和2年10月1日から青山北部公園運動施設が廃止となることから、代替施設となりえるのか1年程度様子を見る。

④なし

## 25 大山田東グラウンド

①縮小 I期

②廃止 I期

③公共施設最適化計画では第1期縮小の施設であり、使用者も地域住民に限定されている。施設内に災害時のヘリポートがあり、大山田支所、総合危機管理との協議が必要である。大山田地域内唯一の市営のグラウンドであるが、大山田小学校、中学校のグラウンド利用もできることから、住民自治協議会へ無償貸付する方向で進めます。稼働率評価もCと低い。

④なし

## 26 大山田東体育館

①縮小 II期

②廃止 I期

③公共施設最適化計画では第II期縮小の施設であり、使用者も地域住民にほぼ限定されている。大山田地域内には市営体育館として大山田B&G海洋センター体育館があること、大山田小学校、中学校体育館の学校開放施設もあることから縮小方向で進めます。稼働率評価もCと低い。

④なし

## 27 阿山B&G海洋センター

①継続

②継続

③阿山第1、第2運動公園の管理センターとしての機能もあり、体育館、トレーニ

ングルーム、プールがあり、阿山運動公園の中核となる施設である。B & G財団から無償譲渡された施設であり、財団からの修繕助成制度もある。稼働率評価は体育館がB、トレーニングルームがAと高い。

④なし

## 28 阿山B & G海洋センター艇庫

①継続

②継続

③阿山B & G海洋センターに付属した施設であり、海洋性スポーツ（カヌー等）をすることができる。B & G財団から無償譲渡された施設であり、財団からの修繕助成制度もある。

④なし

## 29 大山田B & G海洋センター

①継続

②継続

③大山田地域のスポーツの拠点施設であり、体育館、トレーニングルーム、プールがあり、利用者数も多い。B & G財団から無償譲渡された施設であり、財団からの修繕助成制度もある。稼働率評価は体育館がA、トレーニングルームがBと高い。

④なし

## 30 大山田B & G海洋センター艇庫

①継続

②継続

③大山田B & G海洋センターに付属した施設であり、海洋性スポーツ（カヌー等）をすることができる。B & G財団から無償譲渡された施設であり、財団からの修繕助成制度もある。

④なし

## 5 今後10年間のスポーツ施設整備

○上野運動公園野球場

- ・防球ネット、内野外野不陸

○上野運動公園競技場

- ・アウェー用控室、得点版

○青山グラウンド照明設備修繕

○ゆめが丘多目的広場照明車修繕

○阿山第2運動公園グラウンド防球ネット修繕

○大山田B & G海洋センター体育館アリーナ壁修繕

○既存自然芝サッカーコートの人芝生化

○いがまちスポーツセンターテニスコート改修

○武道館移転

○上野運動公園テニス場増築